

研究活動に関する業績報告

氏名 廣井 禎之

2022 年 2 月 1 日現在

1. 研究分野：病理学、臨床細胞学

主な研究スタイル：基礎研究、臨床研究

2. 研究業績（過去 5 年間）

分 類	題名、著者(申請者含む)、発行掲載誌名/発表場所・巻号・頁、発行/発表年月など
①原著論文	1) 釧先結香、廣井禎之、三井田孝、複合糖質の至適な固定条件と Cancer in adenoma に対する診断的有用性 順天堂大学大学院 Thesis (修士論文) 2022.03 2) 廣井禎之、<i>In situ</i> hybridization (ISH) で何がわかるのか、Medical Technology 48 (2) (査読無し) 2019、170-175 3) Luka Suzuki, Satoshi Hirayama, Mariko Fukui, Makoto Sasaki, Sadayuki Hiroi, Makoto Ayaori, Shuji Terai, Minoru Tozuka, Hirotaka Watada, Takashi Miida : Lipoprotein-X in cholestatic patients causes xanthomas and promotes foam cell formation in human macrophages. J. Clin. Lipidology, 2017.11 (査読あり) 4) Toshiaki Kawai, Susumu Tominaga, Sadayuki Hiroi, Sho Ogata, Kuniaki Nakanishi, Kunimitsu Kawahara, Hiroshi Sonobe, Kenzo Hiroshima : Peritoneal malignant mesothelioma (PIMM), and primary peritoneal serous carcinoma (PPSC) and reactive mesothelial hyperplasia (RMH) of the peritoneum. Immunohistochemical and fluorescence in situ hybridization (ISH) analysis. Am. J. Clin. Pathol, 2017.11 (査読あり) 5) 森藤哲、廣井禎之、腎生検における特殊染色の基本操作とトラブル例、Medical Technology (査読無し)、2017 ; 836-840
②総説	1) ハイブリダイゼーションとは何かを教えてください、サクラ標本道場 初心者編 2019 2) 廣井禎之、目で見える病理・細胞診の不良標本 第2回包埋および薄切に起因する不良標本、Medical Technology (査読無し) 2019、1012-1019 3) 廣井禎之、HER2 検査で蛋白と遺伝子を検索する理由を教えてください、検査と技術 (査読無し)、2017、520-521 4) 廣井禎之、福岡澤奈、脳神経染色、病理と臨床 (査読無し)、2017、1039-1046
③著書	1、染色法のすべて (医歯薬出版) 2021.03 査読有り 1) 染色法の選択：廣井禎之 (筆頭；単著) 2) パラフィン包埋組織・薄切未染色標本の脱パラフィン・親水と染色後の脱水・透徹・封入：廣井禎之 (筆頭；単著) 3) ヘマトキシリン・エオジン染色：廣井禎之、森藤哲史、緒方 衡、河合俊明 (筆頭；共著)

	4) クリューパー・バレラ染色：廣井禎之、梅森宮加、緒方 衡（筆頭；共著）、 5) 末梢神経の染色：廣井禎之（単著） 6) アルデヒドフクシン染色：廣井禎之、穂刈玲羽、川島 徹、津田 均（筆頭；共著） 7) レクチン染色：廣井禎之、上野佳奈、河合俊明（筆頭緒；共著） 8) 抗酸菌染色：藤田浩司、廣井禎之、黒田 誠（共著） 9) セナミン銀を用いた神経原線維染色：渋谷康雄、廣井禎之（共著） 2、The 5 Ms” Practical Guide to Histologic, Cytologic, and Pathologic Preparation including: Materials, Methods, Machines, Maintenance, and Management（カンボジア産婦人科学会、国際協力医療センター） 2019. 09 査読あり 編集：厚生労働省カンボジアプロジェクト 共著者：Junichi Koyatsu, Yurie Soejima, Sakae Hata, Osamu Nunobiki, Daisuke Sano. Hitoshi Abe and Kyoko Komatsu 本人担当分（単著） 1) Tissue Processing, Sectioning. 2) Artifacts associated with tissue processing and sectioning. 3、廣井禎之、維持・継続まで見据えたISO15489取得サポートブック、Part 3、5章 技術的要求事項 病理検査からみた「5.7 検査後プロセス」、医学書院（査読無し）、 2019. 10 4、病理技術教本（丸善出版）2017. 05 査読有り 1) 廣井禎之遺伝子関連（単著） 2) 薄切法（単著） 3) Hematoxylin-Eosin 染色法（単著） 4) 神経組織染色（単著） 5) ミオシンATPase染色法（単著） 5、病理技術教本（日本臨床検査同学院）、（共著）2017. 08 査読無し、本人担当分：遺伝子関連
④症例報告	1)、Vitou Leang, Tomoko Wakasa, Sam Sophana, Koun Linka, Yuki Tazo , Haruko Iwase, Hironori Katayama, Sadayuki Hiroi, Eisuke Enoki, Toshiaki Kawai、Peritoneal neoplasm with massive ascites: Case Report、第 60 回日本臨床細胞学会総会、東京、2019. 06. 07-09
⑤口頭発表	5-1) 国際学会・シンポジウム 無し 5-2) 国内学会・シンポジウム シンポジウム

	1) 教育講演 2、廣井禎之、ISO15189 病理検査室の精度管理・標準化とは、第 57 回日本臨床細胞学会秋季大会、岡山、2019. 11. 16-17 一般口演 1) 藤田菜々子、蛭原瑞葉、加藤優奈、橋本紗佳、木内花歩、木下莉奈、村越南央子、廣井禎之（筆頭は新渡戸文化の学生です）、酸化剤の量を変化させたハンドメイドヘマトキシリン染色液染色性の経時的変化、および H&E 染色 SOP の確立・妥当性確認、第 70 回日本医学検査学会、福岡、2020. 05 2) 小宮杏奈、井川元輝、鈴木瑠夏、村越南央子、横尾智子、穂刈玲羽、富永 晋、廣井禎之（筆頭は新渡戸文化の学生です）、線維形成型中皮腫の免疫組織細胞化学—— 形態学的特徴と免疫組織細胞化学 ——、第 70 回日本医学検査学会、福岡、2020. 05 3) 横山梨奈、片山瑞貴、高瀬有沙、高嶋真理、西澤美穂子、松本健宏、柳田絵美衣、廣井禎之（筆頭は新渡戸文化の学生です）、組織保存状態および抽出後の保管による DNA のクオリティー、第 69 回日本医学検査学会、宮城、2019. 05 4) 古本稚菜、加藤こゆり、前之園理央、横尾智子、福岡澤奈、山川奈菜子、富永 晋、廣井禎之（筆頭は新渡戸文化の学生です）、悪性腹膜中皮腫上皮型におけるアスベストの検出、第 69 回日本医学検査学会、宮城、2019. 05 5) 伴瀬瑛理佳、宮古澄佳、原 彩乃、西澤美穂子、高嶋真理、松本 健宏、柳田絵美衣、廣井禎之（筆頭は新渡戸文化の学生です）、組織保存状態による DNA の変化（断片化）、第 68 回日本医学検査学会、山口、2018. 05 6) 菅原萌々、高崎 梨沙、竹田茉生、石倉愛香、三浦元基、立花祐希、富永 晋、廣井禎之（筆頭は新渡戸文化の学生です）Cancer in adenoma における複合糖質の組織細胞化学、第 68 回日本医学検査学会、山口、2018. 05 7) 桂 彩乃、田中優輝、蛭名芽生、小川ひかる、梶原佳純、佐々木美穂、島 都乃、廣井禎之（筆頭は新渡戸文化の学生です）チール・ネルゼン染色の精度管理、第 66 回日本医学検査学会、千葉、2017. 05 8) 穂刈玲羽、小屋瑞季、立川万祐子、高橋満星、立花祐希、並河恵利、仁科春香、廣井禎之（筆頭は新渡戸文化の学生です）病理組織学的な抗酸菌検出のための Histopathologic Technology、第 66 回日本医学検査学会、千葉、2019. 05 ポスター発表 1) 廣井禎之、小松京子、片山博徳、副島友莉恵、松本安代、榎木英介、大原佳央里、若狭朋子、藤田則子、河合俊明、カンボジア国立母子保健センターにおける病理検査室の創設、第 110 回日本病理学会総会、福岡、2020-04. 16-18 2) 副島友莉恵、阿部仁、小松京子、廣井禎之、伊藤智雄、若狭朋子、沢辺元司、大原佳央里、藤田則子⁷⁾、河合俊明、カンボジア王国がん拠点病院における免疫組織化学システムの立ち上げ、第 109 回日本病理学会総会、福岡、2020-04. 16-18
--	---

	3) 若狭朋子、河合俊明、榎木英介、伊藤智雄、小松京子、廣井禎之、阿部 仁、副島 友莉恵、大原佳央里、松本安代、藤田則子、カンボジア王国への病理診断体制整備支援事業免疫染色導入における課題、第 109 回日本病理学会総会、福岡、2020-04. 16-18 4) Pintuna Pich, Yasuyo Matsumoto, Tomoko Wakasa, Kyoko Komatsu, Yurie Soejima, Hironori Katayama, Sadayuki Hiroi, Toshiaki Kawai、Our training course for Cambodian technologists in Japan、第 57 回日本臨床細胞学会秋季大会、岡山、2019. 11. 16-17 5) Chan Kong Huy, Yasuyo Matsumoto, Hang Sovanara, Krouch Rayounette, Hiroki Akaba, Kaori Ohara, Yurie Soejima, Hironori Katayama, Sadayuki Hiroi, Tomoko Wakasa, Kyoko Komatsu , Noriko Fujita, Toshiaki Kawai、第 57 回日本臨床細胞学会秋季大会、岡山、2019. 11. 16-17 6) 廣井禎之、小松京子、沢辺元司、副島友莉恵、片山博徳、布引治・河合俊明、若狭朋子、子宮頸がん検診のための病理技術者育成と体制整備事業（カンボジア）における病理・細胞診標本の質向上 2018 、第 108 回日本病理学会総会、東京、2019-05. 19-21 7) 廣井禎之、小松京子、沢辺元司、副島友莉恵、片山博徳、河合俊明、若狭朋子、子宮頸がん検診のための病理技術者育成と体制整備事業（カンボジア）における病理・細胞診標本の質向上、第 107 回日本病理学会総会、札幌、2018-06. 21-23
⑥その他	<u>座長</u> 1) ランチョンセミナー、第 62 回日本臨床細胞学会総会、千葉、2021、06. 04-06 2) 一般演題、第 60 回日本臨床細胞学会秋季大会、鳥取、2021. 11. 20-21 3) ランチョンセミナー、第 60 回日本臨床細胞学会秋季大会、鳥取、2021. 11. 20-21、ランチョンセミナー 4) 一般演題、第 109 回日本病理学会総会、東京、2019-04. 16-18 5) シンポジウム、第 57 回日本臨床細胞学会秋季大会、岡山、2019. 11. 16-17 6) ワークショップ、第 56 回日本臨床細胞学会秋季大会、福岡 2017. 11 <u>研究会講師</u> 1) 第 14 回 病理学技術者講習会(東日本)、日本臨床検査同学院、2019. 06 2) 第 7 回 中級者のための病理技術 STEP UP 講習会、日本臨床検査同学院、2019. 09 3) 第 13 回 病理学技術者講習会(東日本)、日本臨床検査同学院、2018. 06 4) 第 6 回 中級者のための病理技術 STEP UP 講習会、日本臨床検査同学院、2018. 09 5) 日本病理学会 剖検・病理技術委員会報告、平成 29 年度日臨技度関東甲信支部・首都圏支部病理細胞研究班同講習会、日本臨床検査技師会、関東甲信支部・首都圏支部、2018. 01 6) 第 12 回 病理学技術者講習会(東日本)、日本臨床検査同学院、2017. 06 7) 第 5 回 中級者のための病理技術 STEP UP 講習会、日本臨床検査同学院、2017. 09

3. 外部研究費（過去 5 年間）

外部研究費、代表分担区分、期間、研究経費

地域への貢献

中野区がん征圧月間①がんを知るパネル展、東京都中野区、2017.09～2000.09

中野区がん征圧月間②顕微鏡による細胞観察コーナー、東京都中野区、2017.09～2000.09

学会役員等

1) 日本病理学会 学術評議員 平成 21 年 4 月～現在

2) 日本臨床細胞学会 評議員 平成 16 年 4 月～現在

3) 日本組織細胞化学会 評議員 平成 23 年 4 月～現在

4) 日本臨床細胞学会 国際交流委員 平成 16 年 4 月～現在

5) 細胞検査士会 幹事 平成 25 年 4 月～現在

6) 細胞検査士会 渉外委員 平成 25 年 4 月～現在

7) 多摩細胞診研究会 幹事 平成 16 年 4 月～現在

8) 中皮腫研究会 幹事 平成 26 年 4 月～現在

9) 雑誌医学検査査読員 平成 6 年 4 月～平成 29 年 3 月

10) 日本臨床細胞学会学術委員会委員

平成 18 年 4 月～平成 29 年 3 月

11) 日本病理学会剖検・病理技術委員会委員

平成 26 年 4 月～平成 30 年 3 月

試験委員

1) 二級臨床検査士（病理学）試験委員

平成 10 年 4 月～現在

2) 一級臨床検査士（病理学）試験委員

平成 10 年 4 月～現在